

モデル事業名	再生された廃校を活用した高齢者地域のコミュニティ活性化支援事業
活動団体名	特定非営利活動法人 ひと・学び支援センター熊本
ホームページ	http://www.hssck.or.jp/
所属/担当者名	事務局長 松崎 景子
連絡先	096-354-7252 info@hssck.or.jp
活動地域	熊本県天草市牛深町元下須・天附地区（下須島全域）

### ● 活動地域の概要

熊本県天草市牛深町に位置する下須島は、天草諸島南端に位置し、面積4.5平方km、669世帯、人口1,410人の島である。かつての基幹産業であった沿岸漁業の衰退により人口流出と高齢化（高齢化率40%）が進行し、地区内にあった天附中学校が平成17年3月に廃校となるなどコミュニティの活力低下が大きな課題となっている。



【位置図】



【廃校となった中学校の全景】

### ● 活動地域の課題

高齢者が多い当地区においては、高齢者の「健康の維持」、「移動手段の確保」と高齢者の「平日日中の非常時の対応」等の課題も抱えている。H20年度事業にて、下須島全世帯を対象に実施したアンケート結果及び地域のオピニオンリーダーから構成したワークショップでも、住民の交流についての課題は「定例の行事（催し物）も無くなった」「若い世代と高齢者の生活パターンが違う」「移動手段がないのでコミュニケーションが活性化しない」などに集約されており、新たな公共交通サービスへ向けての検討組織の設立に向けての活動の継続を行うこととした。

### ● 活動の内容

#### ・平成20年度

- 活動① 地域課題の発掘
- 活動② 住民による地域課題解決のための仕組みづくりと共有
- 活動③ ミニ社会実験の実施運営と地域住民によるふりかえり

#### ・平成21年度

- 活動① 検討協議会の設立運営

【時期】6月～11月

【目的】事業採算性の検討、地元の協力体制・運営体制の検討、実施までのスケジュール立案等を行い、新たな公共交通サービスの構築を行う。

【内容】デマンド型乗合タクシーの試験運行を実施目標として、行政・交通サービス事業者・地元とのコンセンサス形成のための検討協議会を設立し運営する。

- 活動② 高齢者の移動手段の実態把握とコミュニティ再生への検討

【時期】12月～2月

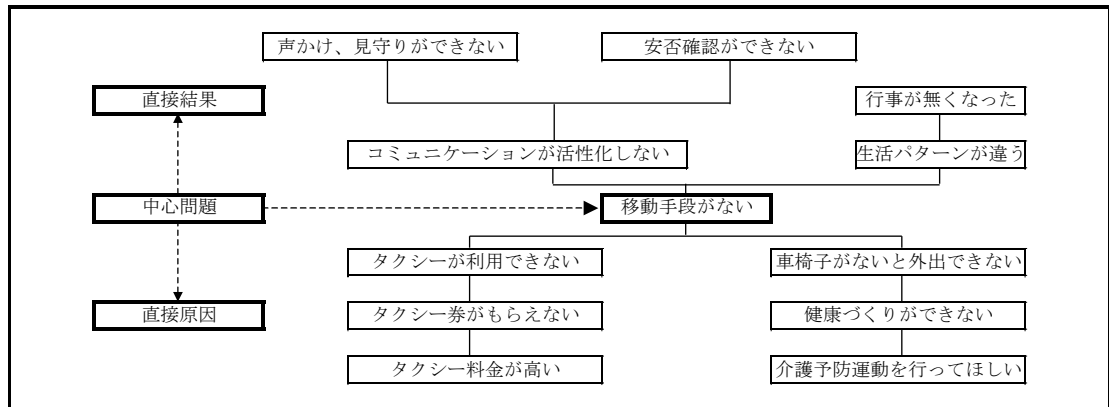
【目的】超高齢化していく下須島の将来像を鑑みた移動交通の整備による集落維持の在り方とコミュニティ再生への課題等について把握する。

【内容】島の北部集落である天附区には唯一の交通手段であった渡船（あまつけ丸）が存在していたが、平成21年8月末をもって廃止され、自家用車を所有していない高齢者世帯においては高低差の著しい天通橋かハイヤ大橋を渡ってのアクセスを余儀なくされることとなった。従来の渡船利用者へのアンケートを行い、渡船廃止前後における高齢者の移動実態を明らかにし、従来利用者を対象としたワークショップの開催・運営を行う。

● **活動の成果**

・平成20年度

(1) 課題の解決、コミュニティの創生



【整理された課題解決のための問題系図】

(2) ミニ社会実験の実施・運営と地域住民によるふりかえり

12月24日(水曜)から1月18日(日曜)まで(年末年始の12/31~1/4を除く)の、年末1週連続+年始2週連続の期間においてミニ社会実験を実施し、継続的の実施に向けての課題と今後のコミュニティ活性化についてワークショップを実施した。



・平成21年度

活動①：検討協議会の設立運営

6月26日(金)、7月10日(金)、7月31日(金)、9月15日(火)  
11月27日(金) 計5回の検討協議会の設立・運営

活動②：高齢者の移動手段の実態把握とコミュニティ再生への検討

当初計画ではデマンド型乗合タクシーの試験運行を実施目標として、行政・交通サービス事業者や地元とのコンセンサスを形成するための検討協議会を設立し、事業採算性の検討・地元の協力体制・運営体制の検討まで行っていたが、道路運送法の手続きが難航したため、新たな公共交通サービスの構築ができなくなった。よって、地域コミュニティの活性化策をさらに模索するための活動として、下須島唯一の高齢者の足であった渡船の廃止による地域の生活交通の状況と高齢者同士の交流する機会の変化について把握することとした。

(1月17日現在実施中)



● **今後の課題及び展望**

・課題

道路運送法の手続きに基づいた「地域公共交通会議」は、地域のニーズに応じた多様な形態の運送サービスの普及を促進し、旅客の利便を向上させるため運賃・料金、事業計画等について地域の関係者による合意形成を図る場である。その会議に諮問するための前段階として、地域のニーズ把握のためと関係者の合意形成を図る目的で検討協議会を設立したものの、タクシー事業者にとって、新たな交通事業が運行されることが死活問題に直結する等の理由により、最終段階における合意形成には至らなかったことが課題として挙げられる。

・展望

本活動の目指す成果は、「南風ん風」が地域の福祉・交流活動の拠点として活用され、地域住民の福祉と交通が充実し、地域コミュニティの再生を図ることである。このように、住民に最も身近な基礎自治体である市町村の手の届かない範疇であった課題を、住民主体によって解決し、実践していくことで、地域の担い手発掘・地域リーダーの育成・地域振興にも繋がるものと確信している。

さらに、H20年度のワークショップの中で災害時や緊急時への不安解消が課題としてあがり、限界集落とよばれる地域における高齢者の安心・安全が強く求められていることがわかった。今後は、下須島が求める新しい地域公共交通の整備だけでなく、南風ん風を下須島の防災拠点として機能できるよう施設整備や体制づくりへの取り組みも考えていきたい。